



十和田市立中央病院

# 病院ニュース さわらび

平成 27 年 11 月 20 日号

## 新赴任医師の紹介



整形外科 科長 いわさき ひろき  
岩崎 宏貴

早く仕事に慣れて、戦力として頑張りたいと思います。  
よろしく申し上げます。  
○所属学会: 日本整形外科学会

## 第 2 回院内研究発表会開催報告

業務課 吉田 武範



教育研修委員会にて、11月17日に「第2回院内研究発表会」を開催しました。7月の第1回目に引き続き、当院の診療業務に係る幅広い分野での発表が行われ、院長からは「病院経営は異業種間の連携が最も大事。意外と他職種の業務について知っている職員は少ない。日頃の業務での問題提起や解決方法の事例など、研究に限らず今後も積極的に発表してほしい。」と総括がありました。



### 【発表プログラム及び筆頭演者名】

「十和田市立中央病院における緩和ケアの変遷、そして、これから」

緩和ケアチーム 太田 緑 [内容はこちら](#)

「入院がん患者の全人的苦痛の現状 -2014年 STAS-J 評価からの現状報告-」

緩和ケアチーム 太田 緑 [内容はこちら](#)

「褥瘡外来で関わった症例」

薬局 蓬畑 奈津子 [院外公開は12月になります](#)

「施設入所用フォーム（診断書・診療情報提供書）の統一化に向けての当院の取り組み」

地域医療連携室 柴崎 陽介 [内容はこちら](#)

「地域包括ケア病棟開設に向けての現状と課題」

医事課 寺田 俊介 [内容はこちら](#)

「地域の有床総合病院精神科において研修する意義」

医局 徳満 敬大 [院外公開は12月になります](#)



## 外来診療担当医表

外来診療担当医表は随時更新しております。下記のURLからのご確認をお願いします。

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>

平成 27 年 10 月 24 日（土）～10 月 25 日（日）の 2 日間、十和田市立中央病院別館 2 階講堂で、看護師のエンド・オブ・ライフ・ケアを向上させるための研修会、「ELNEC-J in 十和田（コアカリキュラム看護師教育プログラム）」が病院主催で行われました。

本研修会は、地域・病院・施設の看護師を対象に、がん・非がんに関わらず、緩和ケアを必要とする人や、人生の終焉にある患者と家族に、質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアを提供できるための知識や技術を学ぶ研修会です。県内で、毎年開催しているのは十和田市だけで、今年も ELNEC-J の指導資格をもった講師が 12 名集まり、他施設に先駆けて開催した形となりました。

研修内容は ELNEC-J コアカリキュラムに沿い、講義やグループワーク、ロールプレイなどを通して、知識や技術を習得するプログラムとなっています。今回の参加者は 25 名。県内全域から参加され、当院からは 8 名の看護師が参加しました。今回参加された看護師の皆様、お忙しい中ご参加ありがとうございました。ぜひ、日頃のケアに活用してください。

また、参加のためにご協力頂きました師長および看護師の皆様、誠にありがとうございました。

### 【参加者の感想】

人が人生を終える時のライフ（生活・人生）に焦点をあて、全人的にその人を捉え、ケアすることの意義をしみじみと考える機会にすることができました。充実した研修会でした。

興味がある分野だったので、楽しかったです。わかりやすい講義でした。

研修に参加し、自分のケアを振り返ることができました。ロールプレイを通じて、患者家族の気持ちをもっと考え、感じ、言動や援助につなげていきたいと感じました。これからの関わりで迷うことや悩んだ時は、今回の資料や学んだことを思い返し、自分の力へ変えていきたいと思えます。

グループワークやロールプレイを第三者に見てもらうことで、自分自身の伝え方を振り返ることができた。コミュニケーションを学ぶよい機会になりました。患者家族に寄り添う看護を実践していきたいと思えます。

がんの緩和ケアだけでなく、非がん高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアまでの研修で、とても勉強になりました。ロールプレイの患者役として、告知された時の何とも言えないショックな気持ちを忘れずに、これからのケア（声掛けや対応）に活かしていきたいです。

講義やグループワークを行うことで、どのようにアセスメントすればよいか、理解できた。ロールプレイでは、患者に声をかけるタイミングや会話内容など、今までは困惑していた場面の反省や解決策などがわかり、よかったです。今後はもっと積極的に患者と向き合っていけそうです。



「さわらび4月号」からフィッシュ活動が紹介されてきていますが、それは、どんな職業でも遊び心を忘れず、明るい雰囲気を作り上げていくことができるならば、それはしいて言えば「いい職場」であり、またそうあらねばならない、と考えるからです。当病棟も毎月思考を凝らして、患者様やご家族・ご面会の方々がほっとできるような空間を設けています。



夏の七夕飾り

在宅復帰支援担当者などが共同し、患者様やご家族の意向を確認しながら、在宅復帰に向けた相談・準備などを行います。

私たちは、この病棟が地域に存在する意味を考えながら、患者様が安心して退院できるよう、試行錯誤しながらもフィッシュのように明るい職場作りを心がけていきたいと思っています。

5階東病棟は、来年2月から、一般病棟から「地域包括ケア病棟」に移行する予定で、現在は11月1日から準備期間に入りました。「地域包括ケア病棟」とは、一般病棟(急性期)での病気の治療は終了したものの、すぐにご自宅に帰るのは不安であったり、また施設に入るためには不安が残る患者様に、しばらくの間入院療養を継続しながらリハビリや在宅に向けた準備を整えるための病棟です。主治医をはじめ、看護師・リハビリスタッフ・



秋の風景

## 院内『チーム医療』の紹介 (part )

### 「呼吸ケアチーム」 救急看護認定看護師 仁和 喜美江

当院では、2010年(平成22年)10月に呼吸ケアチームが発足しています。Respiratory care Support Team(RST)と呼ばれ、医師、看護師(救急看護認定看護師、呼吸療法認定士含む)、臨床工学士、理学療法士が専門的知識のもと、人工呼吸器管理や呼吸ケアに関する支援を行うチームです。各病棟のリンクナースがかけ橋的存在を担い、チームからの指導を部署内に伝達し、呼吸ケアの標準化、安全確保、質の向上に努めることを目的に活動しています。呼吸器疾患や脳卒中、手術後など人工呼吸器を装着する理由は様々ですが、「より早い人工呼吸器からの離脱」「呼吸ケアのレベルアップ」を目指して、患者一人ひとりの呼吸ケアをサポートしていきたいと考えています。

## お知らせ

### 🚼 車椅子のご寄附がありました。

去る11月9日(月)に、『十和田市援会(会長:欠畑茂治様)』様より車椅子2台が寄附されました。

『十和田市援会』様には、平成22年から今回まで合計24台のご寄附を頂いております。この活動は、すでに市内近郊では広く認知されてきており、たくさんの方々がプルタブ等を集めてくださっているそうです。職員一同、ご厚意に深く感謝申し上げます。

